

第1回宇治市観光振興計画策定委員会

会議要点録

日時：平成24年5月25日（金）午前10時～

場所：宇治市役所8階 大会議室

次 第

1. 開会
2. 委員の委嘱
3. 開会あいさつ
4. 委員の紹介
5. 委員会の設置
6. 委員長互選及び副委員長指名
7. 委員長あいさつ
8. 委員会の公開
9. 協議
 - ・ 宇治市観光振興計画の考え方
 - ・ 宇治市観光振興計画策定のスケジュール
 - ・ 宇治市観光動向調査結果報告
 - ・ 宇治市観光基本計画（前結果）の総括
 - ・ 自由討議 等
10. その他
11. 閉会

< 出席委員 >

坂上 英彦	京都嵯峨芸術大学教授
森 正美	京都文教大学教授
神居 文彰	平等院住職
北村 善宣	社団法人 宇治市観光協会副会長
古賀 則行	平等院表参道商店会会長
杉本 貞雄	社団法人 京都府茶業会議所会頭
通円 亮太郎	宇治源氏タウン銘店会会長
中西 敏	宇治橋通商店街振興組合理事長
八木 一樹	公益社団法人 京都府観光連盟専務理事
山本 哲治	宇治商工会議所会頭
林 啓志	京都府山城広域振興局農林商工部長
木下 健太郎	宇治市都市整備部長
中谷 俊哉	宇治市教育部長
中村 俊二	宇治市総務部長
松田 敏幸	宇治市市民環境部長

事務局：宇治市産業政策室商工観光課
(株式会社グリーンエコ)

敬称略

《資料 宇治市観光振興計画策定委員会名簿》順

【1.開会】

事務局より開会と資料の確認

【2.委員の委嘱】

土屋副市長から委嘱状交付。

【3.開会あいさつ】

土屋副市長から開会のあいさつ

(その後土屋副市長は他の公務のため退席)

【4.委員の紹介】

各委員より自己紹介

【5.委員会の設置】

事務局より《資料1 宇治市観光振興計画策定委員会設置要項》の説明。

【6.委員長互選及び副委員長指名】

事務局より委員長の互選及び副委員長の指名について説明。

北村委員より坂上委員を委員長にとの推薦があり、満場一致で坂上委員を委員長に決定。

坂上委員長より山本委員を副委員長にとの指名により山本委員を副委員長に決定。

【7.委員長あいさつ】

【坂上委員長】

京都嵯峨芸術大学の坂上でございます。過分のご評価をいただきご推薦をいただきました。皆様のご協力を得まして、この委員会を円滑に進めてまいりたいと思いますので、どうぞご協力の程をよろしくお願いいたします。

冒頭、少し、私の、この委員会に対しての考え方を述べさせていただきたいと思います。観光というのは、人々の心に感動を提供しないといけないと思っています。また、地域文化、まちづくり、産業、市民生活、雇用、教育、場合によってはITなど、さまざまな分野を解け合わせ1つの方向に持っていく必要がございます。そういう意味で、最先端の産業だと私は思っております、すごく大変な課題に取り組まないといけないなと感じております。そのことが1点でございます。

2点目は、多くの観光計画が、いわゆるマスタープランということで、夢を描いて実際に何をするのかということが、あまり明確になっていない計画となっております。しかし、最近は観光に焦点が浴びることによりまして、今年、来年、2、3年以内に何をするのかという事が計画書に載せられていることが多くなってきております。そういう意味で、絵に描いた餅ではなくて、食べられる餅をみんなでつくっていききたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。引き続きまして、山本副委員長より就任のごあいさつを賜りたいと思います。

【山本副委員長】

山本でございます。生まれも育ちも宇治市でございます。この宇治というのは、京都市から近くでございますが、京都市では5,000万人構想を持たれており、その1割が宇治へ来られているということでございます。京都市内の人からよく言われるんですが、京都市には5,000万人で、宇治はたったの500万人だと。せめて2割、3割ぐらいの人は宇治に来ていただいてもいいのではないかなという意見も聞いております。これからも微力ではございますが、宇治の観光振興に尽くしたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

【事務局】

ありがとうございました。それでは改めまして、第1回宇治市観光振興計画策定委員会を進めさせていただきます。この後の委員会の議事進行につきましては、坂上委員長にお願いしたいと思っております。それでは坂上委員長、よろしくお願いいたします。

【8. 委員会の公開】

【坂上委員長】

では早速ですけれども進めさせていただきたいと思っております。お手元の次第に従いまして議事を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

最初の議題は、次第の8番目、委員会の公開についてでございますけれども、事務局のほうからご説明をいただけますでしょうか。

事務局より《資料2 宇治市観光振興計画策定委員会の会議の公開に関する要項》の説明。

【坂上委員長】

ただ今、ご説明いただきました委員会の公開につきまして、ここに記載されているとおり定めたいと思っておりますけれども、皆さんいかがでしょうか。

(異議なしとの声)

【坂上委員長】

皆さん、異議なしということですので、これで進めさせていただきたいと思っております。それでは、傍聴人の入室をお願いしたいと思います。

(傍聴人入室)

【9.協議】

【坂上委員長】

それでは、次第9の協議に移らせていただきたいと思います。今日の協議につきましては、まずはこの計画の考え方について、皆さんでご討議をいただくということと、後ほど現状分析等の資料を基に意見をいただくという、2つに分けて進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。では、事務局のほうからご説明をお願いします。

【事務局】

《資料3 宇治市観光振興計画の策定について》の説明。

【坂上委員長】

ありがとうございます。今の資料のご説明について、ご意見等がございましたらお伺いしたいと思います。計画の策定についてのご意見、こういうやり方のほうがいいのではないかと、というようなご意見を賜りたいと思います、どなたでも結構でございますので、どうぞよろしくお願いします。北村委員、どうぞ。

【北村委員】

北村でございます。脇坂課長からご説明いただきまして、おおむね理解できたと思うんですが、実は、この観光協会の専門委員会のまとめを、本日配付いただきましたね。これは事前配付に入っていましたか。

【事務局】

いえ、それにつきましては、お送りする際に、まだ整理できておりませんでしたので、本日配付させていただいたところでございます。

【北村委員】

そうですか。意見集約していただいて、いろいろご苦労いただいたと思うんですが、できましたら次回からは事前配付なさるときに、一緒に配付をお願いできたらと思うんですけど。

【事務局】

できる限り、そうしていきたいと思います。ほかの資料とは別に遅れての配付ということになるかもしれないんですけども、できる限り事前に委員の皆様方にお配りできるようにしたいと思います。

【北村委員】

さまざまな意見を集約していただいておりますので、貴重なご意見もあると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

【坂上委員長】

ありがとうございます。森委員。どうぞ。

【森委員】

森でございます。2ページの3の計画期間の部分なんですけど、10年間という長期的な見通しを持ってということでもいいと思うんですけども、先ほど委員長のごあいさつにもありましたように、やっぱり短期でやらなければいけないことが、観光の面ではたくさんあると思いますので、10年を2つに、5年、5年に分けるという素案に対して、議論の過程の中で必要に応じて、その5年を少し分割するというようなやり方で、計画の構成を考えていける可能性を残したほうがいいのかというふうに私自身はちょっと思いました。

【事務局】

5年という期間につきましては、観光面、また、IT面でも非常に変化のスピードが激しいことや、ただ今のご意見も踏まえまして我々のほうでも、もう一度検討をしていきたいと思えます。

【神居委員】

2点ちょっとお聞きしたいんですが《資料3 宇治市観光振興計画の策定について》の1. 経緯も含めて、考え方の起点なんですけども、観光をさらに発展させていくということが目的になると思いますが、先ほど副委員長がおっしゃったように、例えば、さらに発展というところに対して具体的な数値を織り込むかどうかですね。宇治市の観光入込客数500万人という目標が以前ございました。それを、先ほど副委員長がおっしゃいましたように、もし仮に京都市の5,000万人の2割でしたら1,000万人といった具体的な数値になって、そうなると、例えば駐車場の数とか、地域とか、そういったことにもかかわってくると思うんです。それらを設定するかどうかということをお聞きしたいことと、もう1点ですけども、資料3の4ページの策定イメージ図なんですけども、実は宇治市様から5月15日に歴史的風致維持向上協議会の発表がございました。その内容を読ませていただきますと、太閤堤の整備、そして21の事業、それを観光振興に役立てるという形で決定しご発表になったと思います。観光振興に役立てるということで、21の事業が歴史的風致地区向上協議会のほうで一定策定されていながら、そういったことが、こちらの振興策定の中にどのようにかかわるのか、もしくは、歴史的風致地区向上協議会が、こちらにどのようにかかわってくるのかということをお聞きしたいです。

【森委員】

すいません、その意見に1つだけ追加したいと思います。そういう意味で言えば、宇治市の第5次総合計画でも「お茶と歴史・文化の香るふるさと宇治」ということをまちづくりの目標にしているんで、そういう全体の位置づけの中で説明いただければ非常にわかりやすいかなというふうに思いますけど。すいません、割って入って申し訳ありません。

【事務局】

まず数値目標についてなんですけども、前計画では、観光入込客数を500万人に増やしていこうという目標を持っておりました。今回も、それを1,000万にするのかというお話もあるんですけども、そのあたりは今後、これから説明させていただきます動向調査の状況であるとか、今後どういうふうに進めていくのかということと合わせながら、この委員会でご議論いただきたいというふうに思っております。また議会のほうからも数値目標を定めてはどうかとご意見をいただいております。それは、例えば人数がいいのか、あるいは、ほかの数値、いろんなものがありますので、どのような数値で目標を立てるのがいいのかということも含めて検討をしていきたいというふうに考えています。

それから、歴史的風致維持向上計画との関連ですが、第5次総合計画でも、宇治茶と歴史文化については副題としておまして、こういった歴史的なまちづくりを太閤堤の発見を契機に進めていこうということを市としては考えております。必ずしも、そこだけではないんですけれども、歴史的風致維持向上計画の中では、それを活用した観光施策を進めていこうとしております。この宇治市観光振興計画策定事業も、今おっしゃっていただいた21の項目の中に事業の1つとして入っております。また、歴史的風致維持向上計画、いわゆる歴まち計画というんですけども、その計画のほうでは順次、新たな事業については、追加していけるというふうにもお聞きしております。具体的に、この観光振興計画の策定の中で、こういった事業をやるべきだと、市としても、こうしたことをやりましょう、あるいは、市がやることもありましょうし、例えば観光協会、あるいは事業者の方々にやっていただくものもあると思うんですけども、その中で進めていくものについては今後、その歴まち計画のほうにも、これを加えて、反映していただけるように調整を図っていきたいというふうに考えております。

【坂上委員長】

ご質問について、よろしいでしょうか。数値目標については、この計画策定の中で検討し、必要に応じて決めていくという理解でよろしいでしょうか。

【事務局】

はい。

【坂上委員長】

2点目のお話は、関連計画ということで調整しながら進めていくということでもよろしいでしょうか。

【事務局】

はい。

【八木委員】

京都府観光連盟の八木でございます。この計画策定がされた後の5年間のアクションプランということですけども、例えば、1年ごとに振り返るような会議を、推進協議会なり、そういう

ような形で見直したりというような体制づくりは考えていますか。本委員会組織としては、今回の策定が終われば、それは、お役目が終わるといったようなことですが、あと1年ごとなのか、2年ごとなのか、5年ごととか、そういうスパンでの見直しというのは、どうなんでしょうか。

【事務局】

本委員会につきましては、策定を目的としております。見直しの部分について、計画は10年ですが、前後期、5年、5年のアクションプランをつくることとしています。それで今回は、前期5年のアクションプランを含めて、ここで議論をしていきたいと考えています。次の5年、後期の5年をつくる際には、少なくとも、そこで、前期の5年でこういったことができたかということ振り返った上で、次の計画を進めていきたいというふうに考えております。

【坂上委員長】

よろしいですか。そのほか、ございませんでしょうか。この計画期間や見直し組織については、少し柔軟に対応していくべきという考え方を、皆さんおっしゃっておられるかと思しますので、組織をつくって、適時、修正があれば、どんどん柔軟に対応するという考え方を、少し明確にさせていただけるとありがたいかなと思います。

【事務局】

組織として立ち上げるかどうかは別にして、これまでからも、特に観光協会とは、実際に一体となってやっているというところもありますので、そういったところでもご意見を伺い、また、庁内ワーキングにつきましても、今は策定に向けての庁内ワーキングという扱いをしているんですけども、今後、観光にかかわる情報交換的な場にもしていきたいというふうに思っていますので、そういった場においても具体的にこういったことができたか、できなかったところについては、内部的な検証は進めていきたいというふうに考えています。

【坂上委員長】

ありがとうございます。そのほか、ございませんでしょうか。どうぞ。

【林委員】

この策定に関しまして、私も、京都府ということで、逆に同じような立場にあるのかもしれないですけども、そういう意味で、宇治市さんに対するご質問って、我々に対する自問自答ということもあるんですけども、先ほど副委員長さんから、京都市の5,000万人に対して500万人という、数値目標の話もありましたけれども、そういったことを考えると、いわゆる宇治市さんの中だけでいいですか、点という形でどれだけ呼び込んでくるかという発想では、なかなか難しいのではないのかなと思います。要は、線なり面なりといいですか、京都市さんとの関係でどうだ、あるいは、他の山城地域との関係はどうだというようなことで、割と広めにとらえて、その中で、宇治市さんとしてどうしていくのかというような考え方、発想が必要なのかなというふうに感じておりました、広域化の部分なんですけど、そういう意味では、例えば専門委員会では、鉄

道関係、交通関係が入ってられるので、そういった意見を伺う、あるいは観光協会さんも入っておられるので、そういう意見が出てくるのかなと思います。少し他の地域なりと意見交換的なことが必要なのかなという思いが1点と、それと、いわゆる旅行代理店さんといいますが、そういう観光のプロ、お客を呼んでくるプロ、そういう方のご意見というのも非常に参考になるのかなというふうに思っておるんですが、そのあたり、もし何かご見解があれば。

【事務局】

この計画はあくまでも宇治市の計画ということですので、市としての考えを示したいと考えています。当然、広域観光につきましては、京都府さんでも実施されていますので、その中で宇治市ではこういった進み具合ですよといったことは、その都度報告していきたいというふうに考えています。それと、旅行の専門家といいますが、旅行会社関係の方の意見をということなんですけども、観光協会の専門委員会の中で、公益社団法人京都府観光連盟からご出席いただいています、香月委員という方がいらっしゃるんですけど、この方はもともとJTBから府観光連盟のほうに出向されている方で、府全体の観光の観点からと、JTBで培われたノウハウ・ご意見をいただいているところでございます。

【神居委員】

今、林さんがおっしゃったようなことは、必要に応じて実施できれば良いと思います。15年ぐらい前ですけども、私たち国土交通省の近畿運輸局の方々と勉強会をしたことがあります。それは、観光を点ではなくて、面でとらえるということで、民鉄さんのグループ、そしてホテル、それも宇治だけじゃなくて、京都、奈良、そして神戸、さらに大阪の港の方々も入っていただきました。横浜の開港150周年のときにも船のキャプテンたちを横浜で下ろして、大阪まで来てもらいました。港に下りたとき、どこに行きたいかと聞くと、文化の香りのするところということおっしゃるので、むしろ文化は海を渡ってきたというようなことを、キャプテンたちに話をしました。船、港といったところでの取り組みも行っているんです。それから九州新幹線が開通する前の年には、実は刷り込みのために、九州の鹿児島で平等院展をしています。そういったことを通じて、大阪に来られた後どこに行こうかという選択肢の中に宇治が入るような仕掛けなんかも常にしてきているので、ぜひワーキングの中でも民鉄さん、船、そして飛行機、そういった関係者も招聘して下さったら良いと思います。

【事務局】

ただいま賜りましたご意見につきましては、観光協会とも調整をしながら、できる限り反映していきたいというふうに思います。

【森委員】

今、進捗管理と策定段階での議論と、2つの話が動いていると思うんですけど、特に進捗管理に関して、京都府の観光連盟の八木さんと、林委員が広域観光の面も含めて発言されたことが、実は、すごく意味があるというふうに思います。というのは、私自身、こういう観光で委員会に

携わらせていただくのは初めてなんですけれども、ここ何年間か、いろいろ宇治の観光関係のことに携わらせていただいている、例えば宇治市は宇治市で頑張っていて、宇治市観光協会は宇治市観光協会で頑張っている。でも、やっぱり宇治というのは、京都府全体の中で、どういうふうに位置づけられているとか、あるいは、先ほど神居住職のお話でいけば、日本の観光全体の中で宇治のポジションをどうとるかといった観点で、きちんと整理をする場所・議論をする場もなかったという気がしていて、今日、こういうふうに出ていることも、非常に大きいと思うんですね。なので、確かに事務方とすれば、計画を策定し5年ごとに見直すための会議をするというのは当然なんですけど、やっぱり誰かがやったことについて議論をしなければ、実際の実効性というのは生まれないので、そういう意味では私は府の方がおっしゃったということは非常に大きいと思いますし、府にも京都全体のことから考えれば、宇治に相当に力を入れていただくということは当然必要なことなので、ぜひ、そういう意味では、府も巻き込んだ、きちんとした進捗管理の会議を、1年に1回でも開くようなことをもう少し踏み込んで検討していただきたい。そこまで言うつもりはなかったんですけど、せっかく2人が発言されたので、ぜひご検討いただければというふうに思います。

【事務局】

ただいま賜りました意見につきましては、十分踏まえまして、来年度以降、対応をしていきたいというふうに思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます。そのほか、ございませんでしょうか。私から1点、意見ではないんですけど、女性の委員が少ない。アンケートは女性が主導をしているんですが、このメンバーで女性の本当の気持ちや意見が反映できるのか、いささか不安でございますので、できるだけ女性の意見も反映できるような資料なり、ご提出いただいて、実情をつかんだ計画にしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

【神居委員】

今回のメンバーというのは、既にお感じになっている委員の方もいらっしゃるかもしれませんが、中宇治地区の周辺が多いんです。宇治全体のということを考えて、広い範囲でワーキングの委員の方等々も含めて、検討したほうがよいと思います。

【事務局】

もう一度検討していきたいと思います。

【坂上委員長】

では、この振興計画の策定について、幾つかの委員の方々からのご意見があり、事務局のほうでも、それは考慮して進められるということで、まずは、この策定についてのご意見はよろしいでしょうか。ありがとうございます。では、また後ほど、資料等の説明を踏まえて、この策定に

についてご意見があれば、最後にご意見をお伺いするので、次の資料、その他について、次第の10、資料のほうの現状の資料の説明を、お願いしたいと思います。

【事務局】

- 《資料4 宇治市観光動向調査 調査結果報告書》の説明。
- 《資料5 宇治市観光基本計画総括》の説明。
- 《資料6 宇治の観光入込客数の推移（22・23比較と10年間の項目別グラフ）》の説明。
- 《資料7 社会経済状況、課題、解決に向けた具体案》の説明。
- 《資料8 全国観光地入込客統計 訪日外国人旅行者動向 等》の説明。
- 《資料9 第1回宇治市観光振興計画策定専門委員会からの意見・提案》の説明。

【坂上委員長】

どうもありがとうございます。多くの資料を基に、本計画にとって有効な情報がたくさん出ておりました。これらをまとめたら、もう、すぐできるんじゃないかと思われる雰囲気が出ておりますけれども、ぜひ、皆様方からも、これに載っているけれどもこれはもっと評価すべきだとかありましたら、ぜひいただきたいと思うんですが。神居委員がご退席というふうにお聞きしておりますので、先にご意見のほうを。

【神居委員】

申し訳ございません。十分にまとめていただいて、非常に有効で、委員長がおっしゃったとおり、これが実現したら非常に素晴らしいことだなと思います。それぞれの委員の方からご発言がありましたけれども、いろいろな展開の仕方があるとは思っています。例えば、一昨年文化庁が文化遺産と観光ということに対して初めて予算化しまして、それがモチベーションになってくるという気がするので、そういったものの活用なんかもございます。実は私、来週、超党派の議員さんに対する新しい文化財の推進協議会のほうでも説明をするんですけども、いわゆる文化財、コンテンツとして、宇治には非常に素晴らしいもの広い範囲で多くあると思っています。ですからそれらを現代的に、アイテムとして使えれば、他地域よりも進んでいるので、ぜひ、それらを計画の中に入れていただければ、より重層的な観光になるのではないかなと思います。

それから、宇治は歴史的風致地区、そして文化的景観ということで、国から認可を受けた、言ってみれば初めての地区でもございます。この地区をどうやって守っていくか。もともと文化的景観というのは、ご承知のとおり、その地区の文化遺産とお茶等を含めた産業が一体化になったものであり、それが継続して古くから現在まで残っている地区だと思っています。これらを保存しながら、どうやって観光を振興させていくかということ。決して何か新しいものを作らなくてはいけないとか、開発ばかりではないと思います。ソフト的なもの、またはホスピタリティを含めた考え方を含めて構築していくことが多々あると思います。決して新しいものを作らなくてはいけないのではなくて、素晴らしいものが現時点で私たちのそばにあるということで、これを資源としてどう活用していくかということ、ぜひ、この会議で検討できればうれしいと思います。私、ちょっと中座しますけれども、本当に失礼なことです。言いつ放しになりますが、ぜひ、

この後もよろしくお願いいたしたいと思います。

(神居委員退席)

【坂上委員長】

ありがとうございました。では、あと30分ぐらいしかございませんので、今日の中心的な協議の点になると思います。ぜひ皆さんからご意見いただきたいと思います。どなたでも結構でございます。はい、どうぞ。

【北村委員】

動向調査ですが、立派な資料をおつくりいただいて、十分これを活用させていただきたいと思います。10年前との比較が載っておりまして、3ページの交通手段ですが、10年前に比べ徒歩や電車での利用の方が10ポイントほど増えているということがわかります。やはり鉄道利用の方が10年前より相当多くなっているということで、この調査は去年の11、12月、調査をしていただいたんですけど、ETC割引サービスがなくなったり、若者の車離れ、それから高齢者が車を手放すとかいうような部分が影響していると思います。この辺でもリュックを背負った方が非常に多くみえる。今回、宇治橋通りを京都府さんが道路整備で立派にしてくださるということですので早くお願いしたいと思っております。それと、この辺の観光面では、やはり歩く観光をどうしていくかということが大事な課題になってくるんじゃないかと思います。

それから、もう1つ、17ページの外国人の観光客の実態ですが、台湾からが一番多く、韓国が5%と出ていましたけど、これは一時的な原発の影響が大きいと思います。やっぱり中国と韓国というのは、台湾はちょっと多いんですけど、やはり相当数おられて、原発が収まれば回復の方向に向かってくるんじゃないかと思います。

それから、25ページの6番ですかね。宇治をよく知らない、情報が少ないという方が、すごく多いということと、京都駅から17分快速利用というのがわかっておられない方が圧倒的に多いと。この辺は、平等院のご提案で17分というバナーを観光協会で作成し、ホームページにも掲載いただくよう、いろんな企業が参画してやっていますが、まだまだ功を奏していないと。調査結果を拝見しますと、もっともっと力を入れて宇治を知ってもらうことを積極的にやっていかねばならないと。その辺のところを、やはりひしひしと感じております。ありがとうございました。

それと、調査していただいた会社さんに、ちょっと聞きたいんですが、この11月から12月になさっていただいているんですが、日曜日の回数というのは、どれぐらい入っているんですか？

【事務局】

今回のコンサルさんは、この調査の会社さんとは、また別のところになります。把握していますので、また後ほど整理して提出したいと思います。

【北村委員】

そうですか。11月という時期を選んだのは季節的な要因で？三室戸寺さんが相当落ち込んだと

ということなどを考えると、そういう通年で見るということも必要ですね。

【事務局】

季節的には11月、12月のトップシーズンと1月、2月のオフシーズンに実施しました。我々も、トップシーズンとオフシーズンで、もう少し傾向が変わるかなと思っていたんですけども、あまり違いがなかったということもあって、1つの資料にまとめさせていただきました。ただ、おっしゃるように、三室戸寺さんなんかは、春から梅雨のアジサイのシーズンとかが非常に多いかとは思いますが、そういったところはここではわからないということになります。

【北村委員】

4、5、6月が観光の一番ピークですから。長くなりましたが、以上です。ありがとうございました。

【坂上委員長】

今、お話が出ました商店街のほうのご意見、いかがでございますでしょうか。

【通円委員】

宇治源氏タウン銘店会の通円でございます。資料を見せていただきまして、ちょっとびっくりしているのは、ミュージアムの入館者数なんですけれども、私は、宇治上神社さんよりも当然源氏物語ミュージアムのほうが多いと思っていたんですが少ないんですね。それは何に原因があるのか。私はミュージアムができたとき、ミュージアムのついでに宇治上神社さんに行っていたように思っていました。当初、ミュージアムができたとき、平等院さんの1割の入館者数があれば、それでいいというようなこともおっしゃっていたように聞いていますんで、その1割というのはキープしているんじゃないかと思うんですけども、ただ、宇治上神社さんはこのごろ、ものすごくいろんなPRをしていただいておりますので、宇治上神社さんに訪れる方も多いんでしょう。宇治上神社の続きに源氏物語ミュージアムに行かれる方がちょっと少ないんじゃないかとは思っています。先に源氏物語ミュージアムに行かれて宇治上神社に行かれる方は両方行かれますけれども、塔の島のほうから、また、平等院さんのほうから周ってくるときに、宇治上神社から源氏物語ミュージアムへ行くまでの動線が、ちょっと行きにくいんじゃないかと思っております。

それと、先月ですけれども、京阪電車が新しい13,000系の新型車を導入されまして、宇治・伏見1dayチケットなんかも発売をされています。伏見と宇治が連携になった、いろんな観光施策をとっていきたいなということだったんです。4月14日に新車両が導入され、その後の懇談会で言っていたんですけれども、先ほどのデータにもありますように、宇治の町ではスイーツとかカフェが非常に人気があって、お昼を食べる方も多いですけれども、お昼は宇治で遊んで、スイーツを食べて、そして夜は伏見に行ってお酒を飲んでご飯を食べていただく。宇治での滞在時間が大体2時間から3時間ですので、宇治で2時間、3時間費やして、電車に乗っていただいて、そして伏見へ行っていただいて、2時間ないし3時間費やしていただいたら、1日楽しく遊べる

ではないかと思っています。この前、月曜日ですけれども、宇治源氏タウン銘店会で寝屋川車庫に見学に行ったんですけれども、京阪電車の古い人気のある電車で、びわこ号というのがあり、それがまだ動ける状態なんですけれども、例えば宇治線に持ってきて、それを京阪の宇治線で走らせたなら、今は、鉄ちゃんブームですんで、非常に人気が出るんじゃないかと思っています。

それと、重要文化的景観に宇治が認定されたということなんですけれども、そういったゾーンに住んでおられる方、また営業される方には十分浸透していないように思うんです。本町通りのお茶屋さん、古いお茶屋さん、製茶施設を持っておられたんですけれども、それを全部取り壊して新しい建物にされました。私とも一応、文化的景観に入っており認定されたということはわかっていますけれども、行政のほうからアクションが何もありませんね。この前、文化財保護課に行って、うちの建物についても耐震工事をしたいということで行ったんですけど、できませんと突っぱねられました。6月に木造部分の修理をするんですけれども、それに対しても何も補助金が出ないと。まあ、行政は言うだけで冷たいなと思ったりしています。

私どもの銘店街は毎月定例会をしているんですけれども、出てきていただける方は決まった方しか出てこられないですね。来られない人は、いつまでたっても来ていただけない。そして、茶業関係者でもそうですけれども、平等院通りはたくさんお茶屋さんがあるわけなんですけれども、例えば10月1日の製茶記念式典があっても、近くなのに製茶記念式典へ来てもらえないというのがあります。来るのは役員だけというような。掛け声はいいんですけど、それがそれぞれ個々の業者まで浸透していないと。それによって勝ち組と負け組が生じてきていると思うんですけれども、そういうような全体的な掘り起こし、底上げをするのか。あるいは、もう目立ったところが元気やったら、それでいいのかと。そういうふうな底上げも必要ではないかと思うんですけれども。うちも、おかげさまで取材に来ていただいており、今度また月曜日も平等院通り商店街に取材に来られますけれども、それがいいか悪いかわかりませんが、すべての底上げができるようなふうになっていただけたら、ありがたいと思います。以上です。

【委員長】

はい、ありがとうございます。今の、平等院表参道さん、いかがでしょうか。

【古賀委員】

当商店会としましては、意識の改革も含めて実の部分で変えていきたいと思っています。クリーン宇治活動がありますが、2年前からそれとは別にガムとりというのをやっています。石畳にガムが落ちて黒くなって汚くなるんですけど、クリーン宇治に参加するときに、ヘラを買ってきて、みんなで取ったんです。意外とたくさんあって、そのときに、みんな初めて、こんなに汚れていたというのに気づかれたんです。それから毎回、その手入れをするようになりました。

また、今問題になっています、ごみ箱の件。住民の出すごみが、野ざらしになっているという問題。それが世界遺産の表参道としてふさわしくない景観になりますので、何とかしたいと考えました。その取り組みに対しても、何回も各個店さんに回っています。話をして、参加してもらって、自分の仕事ができなくなるので、非常にづらいんですけども、それをやらないと変えられないと思ったんです。2年前から地道にやってきて、最近ちょっと意識が変わったなということ

を感じます。それは、参加してくれて、向こうからも、どうしたらいいと言ってくるようになってきたんです。今回 Wi-Fi、無料スポットの件で、平等院さんのほうから、商店会さんもどうかというお誘いを受けまして、そこで各会員に声をかけたところ、総会よりも多く集まっていたいて、即日可決、承認で、全軒でやろうということになりました。非常にありがたくて、頑張っ
てやって言ってもらえて、それがすごくうれしかったんです。だから僕らも頑張れるんですけども。いつまでそれができるかわからないですけども、商店会のレベルとしての話になるんですが、何かやれることはすぐに、ちょっとでもいいからやれる範囲でやっていきたいと今思っています。

先ほどから、アンケートを見ているんですけど、何か、人が宇治に行きたいというモチベーションというんですか、それって、そんなに難しいものじゃないんじゃないのかなと思っているんです。そこに何か楽しいものがある、世界遺産とか、限定のものがあるとか、美味しいスイーツがあるとか、案外そんなものではないかと思っています。坂上先生がおっしゃったように、やっぱり女性目線が大事ですね。旅行を計画されるのは女性だと思うんです。僕も嫁さんがいなかったら絶対旅行に行かないので。そういう目線というのはすごく重要だと思います。この会議に、女性の方を入れていただいて、意見を聞くのも非常に大事だと思います。今日はあまり時間がないので、いろいろ考えていることはいっぱいあるんですけども、また次回、ゆっくり話ができたらと思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます。非常に力強いご意見をありがとうございます。では、宇治橋通商店街の中西委員さん。

【中西委員】

宇治橋通りは、北村委員のほうから早い整備をとということで、ちょっともたもたしておりますけれども、急ピッチで最後やっておりますが7月いっぱいぐらいかかるかなと、そういう状況で見えております。今日のこの会議に入る前に、いろいろ自分で考えていたんですけども、この10年って宇治市の命運がかかってくると思うんです。この会議で、ぜひとも方向性が1つになれる大方針というか、その辺を十分にもんでほしい。というのは、この言葉が、スローガンでもいいですけども、それによって全部にリンクしていったら、商店街、それから観光協会なんか、いちいちテーブルについて話しなくても、例えば、わかりやすい言葉で、歩いて楽しい観光地とかいうと、それによって歩かせるということで、そうした事業をたくさん考える。商店街を歩かせるということは、JRの宇治駅、商店街のイメージが非常に大切となる。神居さんとしゃべっていて、商店街の入口のアーチを取ってくれないかと意見もあったんですけど、私が思うには、今あれを取るとJRを下りた時に、どこの町かさっぱりわからないと思います。そこで何か事業をやって、宇治らしいなということがわかるようになれば、あのアーチは要らなくなると思います。みんなが自然とわかるというような、大方針が必要ですね。まず、この場でもんでもらって、そうすれば、資料9ですけども、全部当てはまっていくんじゃないかと思っています。観光でもメジャーな観光とマイナーの観光とかあるんで、ベタな観光が面白い人もれば、あくまでもアートが好きな人もいる。人との触れ合いのところが大変好きな人もおられるわけです。ですか

ら、いろんな要素があって、人が観光として宇治へ来られているんですから、そこで標語みたいな、1つポンと出てくるような言葉があると、いろんなことが判断しやすくなるとおもいます。今はものすごく判断がしにくい状況ですので、判断できるような方針をお願いしたいと思っています。

【坂上委員長】

考え方を総じて1つシンボルの表現をするということが必要だということですね。

【中西委員】

わかりやすい言葉で。

【坂上委員長】

杉本委員、今の現状の報告の中では、宇治茶の話があんまり出ていなかったものですから、ぜひご意見をいただけますでしょうか。

【杉本委員】

ありがとうございます。先ほど、府の林部長がおっしゃっておられましたように、お茶につきましては京都、宇治、山城という感覚でとらえさせていただいておまして、今、京都府さんで、いわゆる日本茶、宇治茶の世界文化遺産の登録の可能性検討委員会というのを、昨年からはじめていただいております。平等院さん、宇治上神社さんは世界文化遺産でございますが、いわゆる日本茶文化の代表的資産として、宇治茶と喫茶文化の発祥・継承の地という目標を持って、業者さんと専門の先生方で構成していただいております。ちょうど今日、京大の元副学長さんで、その委員会の委員長をつとめておられる金田章裕先生が、知事さんに10時ごろから提言されていると思います。京都には世界文化遺産が17あり、今年の10月にはユネスコ40周年の世界会議が京都で開かれます。そこへアピールをするようにという知事さんの意向もでございます。今後、いわゆる茶道文化と茶室、それと茶畑、茶問屋、そういうものを中心に、検討の場が可能性検討委員会から推進委員会へと変わっていく予定です。そこで宇治の占めるウエートというのは非常に大きゅうございます。ただ、茶道になると京都市内もございまして、それから茶問屋になると宇治及び山城、木津川市、景観となると、これはまず和東町とかになる。足場が全部、宇治へ、そういう形では集まってくると思うんです。

業界としましては、世界遺産は夢みたいな話になるんですけども、いろんな形で実現に向かって努力しています。これが、ひいては宇治の観光につながっていければと期待しております。ほとんどの世界遺産というのは不動産でございますけれども、無形と有形を合わせたものでお願いできないかというような提言もさせていただいております。無形となると、いわゆる茶道が無形であるし、有形となると茶室が有形である。茶畑は、やはり有形の不動産であるわけです。食品分野の中で今、世界遺産になっているのはワイン、それからコーヒー、それからテキーラ。意外と食品を取り上げた世界遺産が少なく、特にお茶はないので、ぜひ宇治茶で何とかいけなかなと。それが、ひいては宇治の観光に結びつけられるということを今考えております。このアンケート

の中でも、宇治茶という名前を国内ではよく知っていただいておりますが、今後、業界としては、海外のほうへも目を向けながら動いております。なかなか宣伝するのもお金がかかるものですから、地元から発信するのが一番強いだろうということを、業界としても思っております。この観光の委員に指名していただいた中でも、ちょっと部外者みたいな感じもするんですが、そんなところで、ぜひ、よろしくお願い申し上げます。

【坂上委員長】

ありがとうございます。世界遺産非常に大きなテーマになるかと思えます。では、森先生、いかがですか、全体的なことについて。少し時間が、5分、10分ぐらいになってきておりますけども。

【森委員】

各委員の皆さんがおっしゃったことを、どう具体的に詰めて行くのかということだと思います。策定の考え方のところ、十分言えなかった点で、今回、宇治市が観光振興計画をつくるんですが、この計画が本当に重要な計画だということを、やっぱり市民の方にきちんとわかっただくプロセスをとりながら、この会議自体を進めていかないといけないということが、今の議論を伺っていて再認識したところです。

それともう1つは、例えば歩いて楽しい宇治のまちって、中西さん、名コピーライターなので、いい表現をされたと思うんですけども、そういう何か、今あるものをもう一度評価して、それを見直していくような施策というのが、今まであんまりなかったんじゃないかなと。特に事業者さんにとっては、頑張っているんだけど、どこが良くて、どこが悪くて、どう手直ししたらいいかを教えてほしい。そういうような切実なところがあるんだろうなと思います。もう少し、そういった事業に関してのさまざまな助言機能を持ったような内容を加えていく必要があるだろうなと思いました。

歩くことに関しては、実は水曜日に、カナダの姉妹都市のカムループスから学生さんにお越しいただいて、ウォーカビリティーという、歩きやすさをテーマに、うちの学生たちとフィールドワークをしました。出てきた意見には、車が非常に多くて、表参道でもバイクにぶつかられそうになったとか、いろんな意見があって、外国の方々も初めていらっしゃっても、そのあたりが大きな課題と感じられたようです。でも逆に、リバーサイド宇治という言い方をすごくされていて、川沿いを歩くことが非常に良かったということをおっしゃっていました。先ほど、女性の視点というのもあったんですけど、会議の中でというよりは、そういったモニタリング、ヒアリングというものも啓発とともに、実際的な意見を入れていく中で、仕組みとして急いでやらないといけないのかなと思いました。

最後に会頭が、宇治茶の業界が観光のところに呼ばれてもおっしゃったんですけど。私自身は、歴史的風致維持向上計画の中に入れていただいている、宇治茶という生業をどう守っていくかということが非常に大事だと思っています。宇治というものを考えるときに、宇治茶というのはブランドとしてすごく強いわけで、逆に言ったら、宇治茶にとっても宇治のまちというのは、やっぱりなくてはならないと思うんです。だから、それは本当に共存関係にあるわけなので、も

う少しそのあたりのスタイルとして、喫茶文化という話があったんですけど、そういうことを考えていければいいかなと思います。

来週の日曜日なんですけど、ちょっと宣伝がましいんですが、うちの大学で東南アジア学会という学会をやるんですけども、ちょっと学会初で異例だと言われたんですが、お茶に関する特別企画パネルを実は企画しまして、東南アジアの雲南とか、あとミャンマーとか、ベトナムとか、いろんなところでお茶について研究している研究者に発表していただくのと同時に、その世界遺産にかかわっていらっしゃる関西学院の寺本先生にもお越しいただいて、宇治茶の喫茶文化の可能性ということで1日、長いパネルなんですけれどもさせていただくことにしました。そういう意味で、世界的な広がりの中で、宇治茶というものを見直していくということも、今回の計画として重要だと思います。すいません、時間制限をいただきながら、つい話し出すと、いろいろ思いがあるので、使いすぎました。マイクをお返しします。

【坂上委員長】

副委員長のほうから、ご意見はいかがでしょうか、今での流れで、何かありますか。

【山本副委員長】

杉本会頭から、また、森先生からお茶ということでのお話をいただきました。私は、宇治のお茶というのは、本当にブランドだと思うんです。海外へ旅行していたときに、宇治って何を思い出しますかと聞いたら、宇治金時と言うんですね。ところで皆さん京なびの案内所へ行かれたことがありますか？京都駅の案内所。この委員さんの中で京なびに行かれた方、行かれていない方おられますか？ほとんど行かれていない。残念ですね。ぜひ1回見ていただきたい。京なびでは、京都府下の市町村、京都市のポスターも展示しているんですけども、宇治茶が世界遺産に登録されようかというときですので、宇治のお茶のポスター、ああいうのを出されたら宇治茶をアピールできる場所だと思います。ぜひ1回、京なびのほうへ。また宇治の市民の方も、京なびという案内所、素晴らしい案内所があるのでぜひ1回行ってみたいと思います。行政の方も、ひとつ、京なびの案内所を見ていただいて、いろいろとご意見をいただきたい。以前、宇治のポスターが一番奥に貼っていたので、それを何とか順番にでも前のほうへ出していただけないかということで、平等院さんの神居住職さんと京都市さんの観光課のほうへ行きましてお願いし、やっとこのごろ前のほうに出ていました。ぜひ1回行っていただいて、宇治の宣伝を、一応見ていただければと思います。今日はちょうど八木委員もお越しになっていますので、ひとつよろしくお願ひ申し上げます。私、よくこういう会議に出していただくんですが、今日の2時間というのは本当、充実した2時間で、あっという間に済みました。2時間というのは少し少なかったんじゃないかなと思っています。どうもありがとうございました。

【坂上委員長】

ありがとうございました。まだ、ご発言いただいていない委員もごさいますが、主に行政関係の方ですので、直接事務局にご意見等があれば、ぜひいただきたいと思います。

時間も参りましたので、少しまとめをさせていただきたいと思います。ご存じのように、客観

的に、宇治は日本有数の観光資源を持っているということで、あえて何か新しいものをつくる必要は恐らく多分ないだろうと思います。既に500万人の方々がいる実態を見れば、それは明かであります。しかし、この資源をもっと有効に活用できる部分が残っているのかという質問に対しては、多くの方が、たくさん残されているということでございますので、この会議は、それに向けて、どのように活用していくかということを考えてまいりたいなと思っております。特に、資料の中では、実際には情報が届いていない、これが一番大きな課題ではないかと思っております。これをどのように今回取り組んでいくのかということがテーマになっておると思っております。委員の方々から、歩いて楽しむまちというような、例えばの話で出ましたけれども、我々が、共有する考え方を示すコンセプトを、具体的に言葉にし、キャッチフレーズにする。そういうことが、この会議では、1つは重要な課題ではないかということだと思っております。

特に市民の方々のおもてなしを含めた参加についても、まだまだ課題があるということで、一部に、非常に力強いご意見もございましたけれども、例えで出ましたのが、ガムの問題とか、タバコの問題とか、そういう環境そのものを非常にいいところにしていくということが1つ、ソフトのインフラとしては、参加型でできる大きなテーマになろうかと思っております。

私としては、いろんな資源をかき回していただけるのは、あるいは皆さんをかき回していただくのは、地元の大学ですので、大学をフルに活用し、若い人たちが皆さんの頭をかき混ぜてくれるような触媒になってくれるような役割をと思っておりますので、ぜひ大学も含めて。巻き込んでいい計画ができればいいかなと思っております。

あとは、やはりこの計画の中で、戦略、テーマ、取り組むべきことは明らかになってくる。しかし、具体的に、戦術的に、現場でどうするのかというのは、それぞれの人々の力を結集していかないとはいけませんので、戦略と戦術、特に戦術が、私は観光においては重要であるかと思っております。例えば、それは笑顔であったり、あるいはお辞儀の仕方であったり、そういうのは、この計画には載せられないので、そういう戦術面については、やはり最後の骨子のところで言うようになってくるのかなと思っております。

あと2点申し上げるとしたら、緊急には、宇治の観光で節電対策を、この夏どうするのかというのも考えないといけないので、事務局は何か検討をしていただく必要があるかなと。この計画は来年以降ですので、即今年やらないといけないことに少し絡んでこようかと思っております。

もう1点、私は、観光、京都駅のJR奈良線の印象が弱いと感じております。嵐山まで行くほうは、壁にレリーフとかもあって、非常ににぎやかであります。奈良線は、プラットホームに行っても、普通のプラットホームなので、もっと観光地へ行く雰囲気があるといいなと常々思っております。個人的にはそのような見解でありますけれども、このようにまとめをさせていただきました。

今日は第1回目ということで、お集まりの皆さんの幅広いご意見をいただきました。この意見を基に、事務局のほうで、素晴らしい資料が整っておりますので、これをアレンジしていただいて、次回のたたき台として整理をしていただき、さらにもう少し、議論をしてまいりたいと思っております。

それでは、私の役は、これで終わらせていただいて、事務局のほうにお渡しをしたいと思っておりますけれども、その他の項目で、次回の日程についてのご説明をいただきたいと思っております。

【10.その他】

【事務局】

ありがとうございました。いろんな貴重なご意見をいただきまして、また次回に向けて資料に活用させていただきたいと思います。

今、委員長からいただきました、次回の日程なんですけども、本日、次回日程のアンケートということでお配りさせていただいております。次回案としては、こういった案でさせていただいてまして、もしご都合のところは、つかないところをバツして、事務局のほうへ提出いただければありがたいなと。もし、今、手元に手帳がないんでわからないというようなことがありましたら、できたらお帰りになって、またご連絡をいただければ、次の日程を決めていきたいなというふうに思っております。皆様方、大変お忙しいと思いますので、できるだけ速やかに決めていきたいなというふうに思っております。

以上でございます。

【11.閉会】

【坂上委員長】

本日は本当にありがとうございました。本当に皆様方、お忙しい中、ありがとうございます。これで、この第1回宇治市観光振興計画策定委員会を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。